

令和5年度第4回 旭川市雪対策審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年1月22日(月) 視察 13:30~15:40
会議 15:50~16:50
- 2 開催場所 視察 市内各所
会議 総合庁舎7階多目的室(旭川市7条通9丁目)
- 3 出席者 【委員】10名
飯野委員, 石塚委員, 上田委員, 大野委員, 帯川委員, 葛西委員, 木下委員,
田中(紀)委員, 堤委員, 松林委員
【事務局】5名
(雪対策課) 時田課長, 熊澤主幹, 高垣補佐, 伊藤補佐, 村形補佐
- 4 欠席者 【委員】5名
齊藤委員, 田中(弘)委員, 土川委員, 中込委員, 中田委員
- 5 傍聴者等 傍聴者1名, 報道記者1名
- 6 議題 (1) 雪対策の取組の進捗状況について
- 7 資料 次第
- 8 視察 会議に先立ち除排雪作業現場を視察
視察先: 中央地区流雪溝, 中央地区除雪センター, 西部融雪槽, 江神雪堆積場,
忠和地区生活道路排雪作業
- 9 会議録(要点) 別紙のとおり

会議録（要点）

1 事務局から報告

本日の出席委員数が過半数を超えており本審議会が成立していること、会議は公開かつ傍聴できることとしており、傍聴者の定員を5名とすること、本日の傍聴者数が1名であること及び前回審議会の会議録配布について事務局から報告。

2 視察に関する意見

会長の進行のもと、出席委員から1人ずつ意見や提案等について発言があった。内容は次のとおり。

【会長】

議事を進めます前に、本日の視察についての感想や意見などについて、委員の皆さんからお1人ずつ、お話をいただきたいと思います。

【委員】

長年除雪に携わっていますが、今回の視察先は初めての見学でとても有意義だったと思います。西部融雪槽では運搬してくるダンプの台数や処理能力、旭川市と札幌市にしかないなど説明を聞きましたし、忠和地区の排雪作業を見て、進捗状況の説明も受け、旭川市の除雪の流れをだいたい理解することができました。

除雪センターではいろいろな苦情があると聞きましたが、先日、私の住んでいる地区の市民委員会と町内会で実施した除雪パトロールでは、各町内会の会長や役員の方からは、12月の大雪でぬかるむことはあったものの、除雪は結構うまくいっているというお話も聞きました。また雪出ししている人たちにどのように対応したらいいのかという意見や、雪対策基本条例をもっと周知してほしいという意見もありました。

【委員】

除雪作業がどのように行われているか意外と皆さん知らないようで、このような形でいろいろと知る機会を設けることは非常に良いことだと思います。SNSでも除雪の情報、画像などいい感じで発信できていると思っています。

【委員】

中央地区除雪センターで、12月の降雪量が記録的で苦情の件数が多くなったとの話を聞きました。どういう苦情なのか、生活道路の話が中心なのか幹線道路なのか内容は分かりませんが、人命に関わる、緊急なものなど対応の在り方を一度整理していかないと、センター職員もかなり大変ではないかと思いました。

【委員】

雪対策基本計画やアクションプログラムでこういった施設があることは知っていましたが、除雪作業が関係者の努力で成り立っているということを現場に行き感じ、この除雪体制を維持するために市民が協力してみんなで知恵を絞って考えていかなければいけないと改めて感じました。

【委員】

ボランティアによる福祉除雪サービスに取り組んでいますが、今年度は雪が多くて苦情が多くなっています。ボランティア団体としてできること、できないことがありますので、折り合いをつけるのが非常に難しい年だと感じています。

雪堆積場を初めて見まして、すごい雪の量に圧倒されました。違う話になりますけれども、もしかしたら、見たことがない人は、感動したり、びっくりしたりするんじゃないかという印象を受けまして、こういうツアーがあれば、見てみたい人はいるんじゃないかと思いました。

【委員】

隣近所に高齢者が多く、歩道をつけたり除雪していますが、不満の声をいくつも聞きます。先ほどの融雪槽も24時間休み無く稼働していましたが、排雪ダンプも足りなくて道内各地からかき集めて、頑張って除排雪作業に取り組んでいる状況が分かりました。またそうした中で、たくさんの苦情が除雪センターに来て、皆ストレスを抱えながら対応していることも分かりました。12月に何年かに一度の大雪があったことは分かっていますし、一遍には行かずとも作業を進めている状況は、インターネットや新聞記事などを見る人は分かると思いますが、それを見ないで不満を抱えている人、自分の目の前のことだけで苦情を言う人にはどうしたら理解してもらえるのか。私はこの審議会に参加して実情も分かっているだけに、一生懸命作業している成果を見てもらえないというのは非常に残念で、うまく伝えられる方法がないのだろうかと感じます。

【委員】

西部融雪槽はシステム管理されてすばらしい施設だなと感じました。旭川市は12月に大雪があって除排雪作業が追いつかず渋滞したのは事実かと思います。維持管理費など経費を度外視できるならば、こうした施設が旭川市内に3か所ぐらいあれば、排雪がスムーズに進むのではないかと感じました。

【委員】

苦情対応については、私たちは言う側ですが本当に苦労されてるんだらうと、うまく処理していただいて大変ありがたいと思っています。流雪溝は、使われずに雪が積もっている箇所があってもったいない。有意義に活用できたらいいと思いました。

また雪対策の条例ができたことでどのぐらい良くなったのか来年度に検証すると思いますが、作業の現場を見ている中で、条例がうまく機能すればいいなと感じました。

【委員】

除排雪作業に携わっている立場ですが、現場を初めて御覧になった委員もたくさんいらっしゃることを知り、除排雪作業を理解してもらおうと、見える化は大事なことだと思いました。

先週末に市長の除雪センター訪問があり、市長からセンター職員への激励や、私からもセンターの業務の内容など説明し意見交換しました。その際ある地区の除雪連絡協議会の役員の方から、パトロールカーにスピーカーをつけて、除雪ルール・マナーの啓蒙や条例のことを知ってもらうことも必要ではないかという意見をいただき、まだまだ改善していくところがあると感じたところです。

苦情に関しては、多い日では1日に400件の苦情が中央地区の除雪センターに入った日もあり、12月の1か月間で雪が少なかったシーズンと同じぐらいの苦情件数となりました。対応できる内容とできない内容を整理した上で、市民に理解してもらおうことも必要です。単に雪が多いからという話ではないので、意見交換をして良い方向に進めばいいと思います。

【会長】

私たちは審議会の委員ですので、市民目線で雪対策について知ることが大事です。今回視察を行ったことで、12月に雪が非常に多く降り、1日400件もの苦情を受けながら雪処理をしている除雪センターの現場の苦悩や、市の対応状況など、現状を把握できたことは非常に大きかったと思います。

先ほども委員から話がありましたが、今年の降雪の状況や、それに対する市の取組状況などを市民に伝えることが必要だと思います。私の住む地域でも生活道路の排雪作業がまだで、歩くのが大変そうな高齢者もいます。でも、リアルタイムでの発信は難しいとしても、現場の状況が分かれば市民も納得しますし、行動計画とか判断にもつながっていくと思いますので、今回視察した流雪溝や雪堆積場の利用状況、オペレータ不足や高齢化への対策、排雪のため全道各地からダンプを手配して作業にあたっていることなど、定期的に情報発信することは大事だと思います。

3 議題（1）

会長の進行のもと、雪対策の取組の進捗状況として、ICTを活用し、郊外の除雪出動判断に行う雪見パトロールの効率化・省力化について検討する積雪センサー・ライブカメラの実証実験及び、郊外の視界不良時の除雪作業をサポートする映像鮮明化装置を除雪トラック1台に搭載した取組について、事務局から映像等を交え説明があった後、質疑応答を行った。議事進行は次のとおり。

【会長】

DX化の取組の進捗状況について事務局から説明がありましたが、皆さんから御意見、御質問などはありますか。

【委員】

積雪センサー・ライブカメラについては、実証実験の結果導入することにした場合、市民も利用できるようになるのでしょうか。气象台から積雪の数値は出ていますが、出掛ける先の積雪情報を知りたいですし、映像をリアルタイムで見られるのも良いと思います。

【事務局】

郊外の除雪出動を判断するために行っているパトロールを軽減化できないかとの観点で、実証実験を進めています。市民向けに観測情報を公開している他都市の事例はありますが、正確な情報なのかという点などハードルがあります。導入する場合には、ハードルさえクリアできれば情報は公開していくとの方向性はあります。

【委員】

パトロールの出動タイミングや回数などは、どのような状況ですか。

【事務局】

何か所か降雪状況を定点的に観測しており、その部分は定時的に計測に出掛けています。また除雪出動を判断するための雪見パトロールは1日1回、降雪状況に応じて実施しています。市街地から郊外にパトロールに行くには距離があるので、センサーやライブカメラを確認することでパトロールに行かなくて済むならば軽減化できると考えています。ただし、出動判断自体は降雪だけでなく路面状況にも左右されるため、これからの課題と考えています。

【委員】

開発局のホームページで峠の状況などをライブカメラで見ることができ、とても役に立っています。天気予報では雪でも実際に峠ではどうなのかな、ライブカメラの情報を見て今日はやめたほうがいいな、迂回するかなど判断しています。課題がクリアでき郊外に設置できれば、効果は高いと思います。

【委員】

先日除排雪の緊急会議が開かれたとのSNSの投稿を見ました。今後の排雪予定の画像なども公開されていて、市民に見てもらおうという点で非常に効果的で、SNSをうまく利用していると感じました。何か投稿する基準などはあるのでしょうか。

【事務局】

特に基準などはありませんが、写真や動画を投稿する場合に個人情報あまり映らないように意識しつつ、伝えたい内容が端的に分かるよう取り組んでいます。12月には1週間に102センチもの記録的な降雪があり、雪が道路脇にたまり体感的に悪いイメージが市民にあります。排雪作業は去年と比べて遅れておらず、むしろ例年2月10日までを目安にしている1回目の排雪作業を1月末までに終わらせようと除雪企業も頑張っています。作業状況や降雪状況などを発信することで、不安に思う市民に安心してもらえる材料にもなるとして、市長からも積極的に情報発信するよう指示を受けています。ただ、アンケートなどでは、チラシや新聞など紙媒体での情報提供を希望する市民も多いことから、引き続き注力していきたいと考えています。

【委員】

町内会のDX化も進めていると思いますが、デジタル化だけでなく高齢者層にターゲット化した情報提供の仕組みができれば、災害対応にも繋がると思います。

【委員】

雪の状況は毎年異なるので、広報11月号で「除排雪のお知らせ」を載せるだけでなく、排雪の進捗状況だったり、道路への雪出しや路上駐車をやめましょうだったり、シーズン中の時期に情報を提供してもらえると良いと思います。新聞でしたら高齢者はかなりの人が見ると思います。テレビでCMを出すのも良いのでないでしょうか。

【委員】

高齢者は新聞の地方版や回覧板など紙媒体をよく見えています。年代に対応した情報提供手法の使い分けが必要だと思います。

【委員】

前回の審議会で、市で作成した除雪作業のPR動画を見せてもらいました。道路への雪出しなどは知らないからやってしまう面もあると思います。分かるように何度も伝えることで苦情も減ると思います。市民委員会や町内会で生活道路の除雪パトロールができれば、苦情も減って、地域の中での雪対策も上手くいくと思います。そうしたパトロールを積極的に行っている地域はありますか。

【事務局】

市内ですと、永山、神楽、神楽岡、忠和地区などです。

【委員】

「パトロールすることでこういったメリットがありました」といった内容を発信できると良いと思います。

【委員】

雪出し行為が道路がザクザクになる原因の1つでもありますし、出さないよう広報することが大事だと思います。

4 その他

事務局から説明事項はなし。

事務局より次回開催に係る連絡事項として、次回日程は5月以降とすること、開催時間を午後6時とし、調査票により日程調整し、会長と協議の上開催日を決定することの報告があった。

5 閉会

【会長】

以上で令和5年度第4回雪対策審議会を閉会します。